

平成14年度 商青連役員名簿

役員名	氏名	YEO名(原 名)	役員名	氏名	YEO名(原 名)	役員名	氏名	YEO名(原 名)
会 長	大島 昭憲	大島昭憲(鹿児島)	副 会 長	岡部 幹雄	岡部幹雄(福岡)	監 査 員	山口 美子	山口美子(川)
副 会 長	五原 幸一	五原幸一(熊本)	副 会 長	塚本 功治	塚本功治(福岡)	副 委 員 長	川口 裕	川口裕(新潟)
副 会 長	鈴木 敏彦	小田原(神奈川)	委 員	石崎 善雄	石崎善雄(福岡)	副 委 員 長	松村 正和	松村正和(福岡)
副 会 長	手嶋 裕明	手嶋裕明(北海道)	委 員	横井 幹一	横井幹一(岡山)	委 員	島田 功	島田功(福岡)
副 会 長	大村 邦典	大村邦典(福岡)	委 員	藤田 英樹	藤田英樹(福岡)	委 員	島岡 弘明	島岡弘明(福岡)
副 会 長	中野野一郎	中野野一郎(岡山)	委 員	中山 健一	中山健一(福岡)	委 員	田中由明貴	田中由明貴(福岡)
専 任 理 事	吉野 光博	吉野光博(福岡)	委 員	川西 泰西	川西泰西(福岡)	委 員	中野 正彦	中野正彦(福岡)
監 事	加藤 敏史	加藤敏史(北海道)	副 委 員 長	高木 雅文	高木雅文(福岡)	委 員	山田 浩志	山田浩志(福岡)
監 事	上田 崇C	上田崇(福岡)	副 委 員 長	丸山 昭C	丸山昭(福岡)	副 委 員 長	石原 一夫	石原一夫(福岡)
北 海 道	田村 基二	田村基二(北海道)	委 員	岡 亨	岡亨(千葉)	委 員	西岡 一明	西岡一明(福岡)
東 北	鈴木 雄三	鈴木雄三(青森)	委 員	林 洋三	林洋三(福岡)	委 員	奥田 康介	奥田康介(岡山)
東 京	山田 敏雄	山田敏雄(神奈川)	委 員	藤田 敏夫	藤田敏夫(大阪)	委 員	河野 寛文	河野寛文(山口)
北 陸 道	渡部 伸弘	渡部伸弘(石川)	委 員	小嶋 利広	小嶋利広(福岡)	委 員	島岡 英樹	島岡英樹(福岡)
東 海 道	牛丸 圭五	牛丸圭五(岐阜)	委 員	足立野太郎	足立野太郎(福岡)	委 員	石井 光洋	石井光洋(福岡)
近 畿 道	中村 清志	中村清志(大阪)	副 委 員 長	伊藤 文孝	伊藤文孝(福岡)	委 員	中田 健二	中田健二(福岡)
中 国	C田 一宏	C田一宏(福岡)	副 委 員 長	藤崎 哲	藤崎哲(北海道)	委 員	藤原 亨	藤原亨(福岡)
四 国	林本 隆	林本隆(高知)	副 委 員 長	前田 浩史	前田浩史(福岡)	副 委 員 長	作田 亨	作田亨(福岡)
九 州	松下 一郎	松下一郎(福岡)	委 員	橋本 立雄	橋本立雄(福岡)	副 委 員 長	山本 博典	山本博典(福岡)
			委 員	藤田 伸一	藤田伸一(福岡)	副 委 員 長	島崎 新一	島崎新一(福岡)
			委 員	佐藤 正浩	佐藤正浩(福岡)	委 員	西村 伸行	西村伸行(福岡)
			委 員	岡崎 晋史	岡崎晋史(福岡)	委 員	鈴木 浩彦	鈴木浩彦(福岡)
			委 員	高田 秀徳	高田秀徳(福岡)	委 員	田中 一幸	田中一幸(福岡)
			委 員	松内 雅博	松内雅博(福岡)	委 員	田田 昭介	田田昭介(福岡)
			委 員	笠田 善好	笠田善好(福岡)			

平成14年度 年間スケジュール

月	ブロック大会・全国大会・ 会員総会・全国会長研修会等	役員会・正副会長会議・ 委員会等	ブロック別会長会議	ブロック別 単体会長・ 専任役員会議	備考
4月		18日(金)～20日(土) 第137回役員会等(鹿児島)	13日(土)福岡(福岡) 20日(土)九州(鹿児島) 26日(金)東北(宮城) 27日(土)北海道(帯広)		04月末日まで 平成16年度全国大会・平成15年度全国会長研修会 開催地決定。両青連が「主催立候補案」受理
5月		24日(金)～25日(土) 第138回役員会等(山口門司)	22日(水)中国(広島) 23日(木)近畿(加古川)		・青年部連盟が議決決議書 両青連会費減額
6月			1日(土)関東(沼津) 6日(木)土庫(横浜) 7日(金)東海(松坂)		06月末日まで 平成16年度全国大会・平成15年度全国会長研修会 「主催立候補案」を正副会長会議にて検討し、審査し、 異議に特色
7月	13日(土)～14日(日)●九州(福岡)	24日(水)～25日(木) 第139回役員会等 (東京・東横ビル)			07月末日まで 平成16年度全国大会・平成15年度全国会長研修会 主催地を役員会で決定 次年度ブロック大会開催予定の公示
8月	31日(土)●福岡(土倉濱水)				機関紙「厚生」発行 ○平成17年度全国大会(中地区) 平成16年度全国会長研修会 (西地区開催希望報告)
9月	7日(土)●東海(高松) 13日(金)●関東(沼津) 14日(土)～15日(日)●北海道(旭川) 27日(金)～28日(土)●近畿(松坂)				
10月	3日(水)～4日(木)●東北(盛岡) 10日(水)～11日(木)●北陸(金沢) 18日(金)～19日(土)●中国(広島)	23日(水)～24日(木) 第140回役員会等 (東京・東横ビル)			○10月末日まで 平成17年度全国大会・平成16年度全国会長研修会 開催地をブロック代表理事会議にて一ヶ所に 選定(15年4月までに届出受理。正副会長会議で精 査)・審査。7月役員会で開催地決定
11月	8日(金)～8日(土) ●第22回全国大会(山口門司) ●第37回役員総会(山口門司)	第141回役員会等(山口門司)			
12月		3日(水)～4日(木) 第142回役員会等 (東京・東横ビル)			
平成 15年					○1月末日まで 平成17年度全国大会・平成16年度全国会長研修会 開催地を地区内ブロック代表理事会議にて一ヶ所に 選定(15年4月までに届出受理。正副会長会議で精 査)・審査。7月役員会で開催地決定
1月					
2月	7日(金)～8日(土) ●第20回全国会長研修会(和) ●第38回役員総会(和)	第143回役員会等(和)			機関紙「厚生」発行
3月					

上記以外に平成14年度役員予定者会議として

平成13年11月8日(水) 第1回役員予定者会議(小田原)(全国大会開催時期中)

平成13年12月6日(水)～7日(木) 第2回役員予定者会議(東京)

平成14年1月16日(水)～17日(木) 第3回役員予定者会議(長崎・方リアック)

平成14年2月8日(金) 第4回役員予定者会議(久留米)(全国会長研修会開催期間中)

山口会頭メッセージ



全国各地の青年部の皆様には、地域を支える経済人の一員として商工会議所活動に積極的にご参画いただいております。日頃より大変心強く感じいております。

現下、わが国は極めて深刻な経済状況の中で、日本経済を再び持続的な成長路線に戻すために構造改革に取り組み込んでおりますが、その手前や手法を誤ると、かえって経済をデフレ・スライヴルに追い込み、回復不能な状態に陥れてしまふ危険があります。

現在の不況の原因は需要不足にあります。したがって、私は、構造改革を成功させ、再びわが国が「健康な日本」をとるためには、当面実効ある大胆な景気浮揚策により経済の安定が確保され、その下でわが国経済の基礎を担う中小企業が本来有する創造性・機動力を十分に発揮できるように、また経営者が元気を取り戻せるように、金融・税制・事業支援制度などの拡充に万全を期すことが必要であると考えております。

申し上げるまでもなく、中小企業が活力を取り戻すことなくして、今後のわが国経済の発展はありません。中長期的な視点に立つて、新規創業支援をはじめ、中小企業が経営革新に積極的に取り組み、新しい分野や前向きな投資、技術開発に果敢に挑戦できるよう、潜在力を持ち意欲ある中小企業を大いに伸ばすための施策を重点的に実施することが重要であります。日本商工会議所といたしましても、新規創業や中小企業の経営革新の支援に全力を挙げて取り組んでいく所存であります。柔軟な発想と「エネ」をギブシェを行動力、さらには「ヒーアイ」な対応力、そして旺盛な企業家精神を持ち合わせる青年部の皆様におかれましても、是非とも明るい日本の未来に向けて、大いに「リーダーシップ」を発揮し、今後のわが国経済の発展と、「健康な日本」の創出を目指してなお「一層」ご活躍いただきますようお願いいたします。

今後とも、青年部の皆様からの「二層のご支援」ご協力を心からお願い申し上げます。

平成14年3月 日本商工会議所会頭 山口信夫

商工会議所の動き

外形標準課税反対 全国で署名運動スタート

日本商工会議所をはじめ経団連、全国商工会連合会、全国中小企業団体中央会、全国商店街振興組合など74の経済団体で構成する外形標準課税導入反対協議会ではこのほど、法人事業税への外形標準課税導入問題について、全国で反対運動を盛り上げるため、大規模な署名運動を開始した。小泉内閣が今年1月から検討を開始した税制の抜本改革に経済界の意見、とりわけ中小企業の生の声を反映させることが目的。5月までの約3ヶ月間で全国の中小企業経営者やその従業員などを対象に署名を募り、政府・与党などに提出することとしている。

(本文)

法人事業税への外形標準課税問題については、各地商工会議所をはじめ、経済界を挙げて反対活動を行った結果、昨年末の平成14年度税制改正では、資本金・固定資産などを課税標準とする総務省案は否定され、導入は見送られた。

総務省案の主な問題点

- 法人のみ対象。取り易いところから取る安易な不公平税制
- 最大の課税ベースは「資本金」。雇用に大きな打撃
- 租税力を軽減。赤字中小企業に約6,000億円を課す大増税
- 納税・徴税コストの増大
- 諸外国では雇用への影響を考慮し、相次いで廃止の方向

しかし、昨年末の与党税制改正大綱には「今後、各方面の意見を聞きながら検討を深め、具体案を得たい」と、景気の状況等も踏まえつつ、平成15年度税制改正を任途にその導入を図る」と明記され、導入の火種が消えていない。

小泉内閣では、2002年を税制の抜本改革を行う年と位置付け、政府税調や経済財政諮問会議などで先月から検討を開始している。政府税調で6月を目途に改革の主要論点を公表。経済財政諮問会議では税制改革の「工程表」をまとめる予定となっている。その検討テーマの一つに、法人事業税への外形標準課税導入問題も含まれる可能性が高まっている。

このため、日本商工会議所では、従来以上に外形標準課税導入反対運動を全国的に盛り上げていくことが極めて重要と判断。中小企業団体の経団連などで構成している外形標準課税導入反対協議会でオール経済界として大規模な導入反対署名運動を展開することを決めた。

日商では、今後あらゆる機会を通じて導入反対を訴えることで、国民的な議論を喚起し、外形標準課税導入による影響の大ききなどについて広くPRしていく。署名運動は各地の商工会議所などを通じ、今年5月までの約3ヶ月間で全国の経営者とその従業員などを対象に行う。安易な不公平税制であると同時に雇用に悪影響を及ぼす資本金課税である同課税の根本的な問題点を示し、署名への協力を呼びかける。

委員会報告

総務委員会活動報告

3年業大会お初活になりました。本年業総務委員会では古巣会長の「開かれた青育連」との強い思いを受け、ホームページ上において青育連役員会の会議内容の公開、すべての活動の予定等の掲載、委員会ページにて活動上に関する情報提供など、日商専修会並びに広報委員会の協力を得ながら委員会メンバー一歩お進めさせていただき、全国YBBGの信頼に押し、機力ではございますが貢献できたものと思っております。

最後に本委員会一年間誰かであった今年度の青育連のあり方の大きな2つの意見を報告させていただきます。年齢制限について、青育連は各事業の進捗で実施されているため強硬は出来ま

いが、日商の伝統にも記載され、国内を代表する青年組織であるので、全国のYBBGメンバーに活動の機会(チャンス)を均等に与えるために、望ましい会員年齢を明示すべき時期が来たと考えます。また本会と親会とのありかたについて青育連は日商の伝統に記載されたことを受け、各事業と親会との最低限の要員あり方を青育連から各事業一委員会へ提示すべきであると考えます。(※)親会の定款に青年部を定めた場合は、親会の常議員会に青年部委員長が議決権を持つて参加する、等以上2つの意見を申し送り、早急で次年度からの青育連でぜひご協賛いただきたいと思います。

企画委員会活動報告

私たちが企画委員会は大幅増員の二倍増の47名のメンバーで活動しておりました。最大の目的は「青育連のなかで最大規模の事業である全国大会」「去年度の締め切りであると同時に、次年度の計画立案の場でもある全国会長研修会」この二つの大会の成功の両手に注ぎます。思い入れをならす、主催者である青育連と主催される専修・学会との協働の場です。主催者として振舞っている大会コンセプトを主催者である専修・学会の思いも伝わりながら具体的にどう実現していくか、この事を最大のテーマとして3年連続で進んでまいりました。

また、去年度の大会だけでなく、次年度或いはその翌年度の大会の開催地決定、基本的な内容の確立なども重要な仕事の一つでした。そしてこれらの事を進めて、青育連が考えてい

ること、目指している4の年全国の皆さんに理解いただき、また一方で会員の皆さんが青育連に何を期待しているのか、どうい活動でやって欲しいのかという思いを組織運営に反映させることが出来たことでの大きな収穫であったように思います。1年という期間、あっという間に過ぎて充実した仕事が出来なかったのではと反省しておりましたが、私達を悩めるこの時代、若工会議所や学生部は何をすべきか、そしてその集合体である青育連はどうあるべきか。

アック大会、全国大会、全国会長研修会はじめ、いろいろな場で全国の皆さんからいただいた熱いフィードバックを確実に本年度に活かすことで1年間の活動を締めくくるとしたいと思っております。

研修委員会活動報告

13年度研修委員会では、「無生塾」「ケンガリーダー研修会」を企画、運営させていただきました。研修委員会の事業は他の委員会と違い、事業の対象者が全国統一総合会社ということで、「無生塾」として有名な日本企業を企画するに重点を置き、取り組むことになりました。しかしその中で、いくつかの課題も発生しました。まず「無生塾」に関しては、今年から日本商工会議所の定款に基づいたことから、専修のついでに日本商工会議所が主催する大会として企画されたことでした。そしてさらに100人規模での開催をして、東証1位の日本商工会議所からの要望も受けました。また「ケンガリーダー研修会」に関しては、予費を増やすことなく、アック大会のついでに開催を企画して内部の負担にせよとのことでした。これらの課題は、その後すべてにおいて無生塾と同様に我々委員会メンバーが苦しみごとくには、年度当初において夢に思っていました。

1月に委員会メンバーの配属が発表された日から5月まで「無生塾」の企画立案をしなければならぬという、覚悟はしたスケジュールでのスタートとなりました。それと同時期にも1月に開催するには、世界大会のエントリーの締め切りや東京学生ネットの手配を急いで進めることになり、2月に日程を決めて3月に会費を始めとする期間に合わせたからです。委員会では話し合いを進めていきました。まず、大会の日程や開催地やイベントと研修会とを融合させる手法で、研修会の開催地をあらかじめ決定して開催地をめぐらしていくことでの開催地点を決めました。しかし、そのための期間に合わせるがため、一つ一つ解決していく必要においてはなんとか実行を断念することがありました。ただなんとなく100人規模での開催という課題だけは、今年度中に解決する段階にはありませんでした。役員会でのついでに開催地をめぐらして研修会も兼ね、電話有償など、考えられるすべての手段を使って委員会メンバー一人ひとりで最後の最後までおこなった。そして決断した後に進められた。そして最終参加者90名と少し手詰りしたものの、14日開催をクリアすることができたことに、参加していたメンバーに心から感謝しております。「無生塾」開催の事業本番でも、研修会という見事な最後大会のため

に若干の足かせはあったものの、独自の青年経営者との意見交換会、経営セミナー、業界別など大規模な商工会議所の多大な協力のもと開催できたことでの、内部の先がめはかめたのではないと思っております。また世界大会のワーキングセッションにおいての古巣会長のスピーチと青年部のアック、そして参加メンバーの報告で会場収束したことは、とても感謝しました。

次に3月には、「ケンガリーダー研修会」を開催しました。「無生塾」が終わった時点でほぼ研修会が決定できず、まったく白紙の状態でした。3月の役員会には絶対に上程して承認をいただくことには10月開催をあきらめなければならぬという方針で、あきらめながらも先行しておりました。最近のアック大会はかなりの大物講師をよんでいて、それ以上という本会に懸かれてしまつた。無生塾でもその大物講師に講師の謝辞の依頼を届けていた。しかし、なんと先にアレックス委員長は理事の任力のおかげで、「無生塾」社長「三木谷元」に10日大物講師に来ていただくことが、上級関係が有り、企画書を作成することができました。当日の「ケンガリーダー研修会」には20名と少なかったもののメンバーも参加してもらったことができた。そして講師やコーディネーターやパネリストのスピーチの準備なども30分程度先手して準備したことにより、非常に円滑な運営で終わることができたが、良かったことばかりではありません。また講師会終了後の懇話会においては、空想YBBGの企画運営による講師の負担感に行きつたことでの、委員会メンバー一同たいへんお疲れです。

本年度の研修委員会の事業において参加メンバーの皆さんが納得して行うことが出来たことは、いろいろな意見があるとは思いますが、進まない点も多かったことを反省しております。委員会メンバーになりてお祈りいたしたいと思います。

研修委員長という大役を1年間でやっていたら、私自身が一番研修させていたのではないかと感じております。いろんな方に支えていたからこそ、全国のYBBGメンバーの参加があったことでのこの報告を託して、開閉を閉じ、おげさせていただきます。(1階本席に参りさせていただきます)

広報委員会活動報告

平成13年度広報委員会では、青年部メンバーは広く青育連を知っていただくため、さらには広く3つ広報を目的として、「無生塾」「無生塾」の開催と発行と青育連ホームページの企画・運営に努めておりました。

無生塾「無生塾」に関しては、通常の記事に加え、できるだけ身近に感じてもらいたい。各社のYBBG事業の記事として取り上げられた。また、発行時期が変更されたことは、委員長の不幸のようですから深くお詫言申し上げます。

青育連ホームページ(以下HP)に関しては、HPを見れば青育連の動きがわかるように努めてまいりました。また、HPを見ていただくために積極的にホームページを発行いたしました。

1年間という短い期間ではありましたが、以上のメディアで全国の皆様と対話できたことは、非常に有意義で、貴重な体験をさせていただきました。併しもちろん、今年度も想定していた全国の関係者をHPで紹介できなかったことが残念です。また、皆様から応援いただいた企画記事は、本年度へ申し送りさせていただきます。

最後になりましたが、記事・連絡のご協力いただきました皆様、本席にありながらお祈りしました。報告を終わって御礼申し上げます。

アントレプレナーズ委員会活動報告

今年度のアントレプレナーズ委員会、一年間の活動を振り返ると、私自身が感じた事をまず申し上げます。まず、本会に多く関わって頂いた委員長、副委員長、及び各委員の方々に深くお礼申し上げます。当委員会も4月に全体で、140名で立ち上げました。人数が多ければいい、仕事もたくさんあって、テーマを決めようとするために各専修会、副専修会、リーダーの方にも大変お世話になりました。

今年度は「創業家精神が日本を駆動する」というテーマで、スタートしました。本席に創業家精神(起業家マインド)を説明された方と、高説を聞かれた方に分かれたのが、非常に残念です。専修会も専修会の方と、そうでない人が出たという事は、私も反省し改善すべき事と学びました。日本人は、やる人間とやらない人間、そしてやらぬ人間の三つのタイプに分かれると言われてますが、本席にそれが残念だと思っております。しかし専修会の方、専修会精神的に取り組んで頂いた方が多く、アントレプレナーズ委員会の今年度の事業報告会でも本席上で行った。取り上げて頂いた、高説副委員長、大変お疲れ様でした。このアントレプレナーズ報告会を経て頂ければ、今年度の各専修会の取り組み姿勢、熱意、そしてその成果が全国の青年部の皆様にもしっかりお伝えしたいと思います。

アック大会に自分の事業の発表だけでなく、「連絡と交流」を通して、次に何をすべきなのかのヒントを専修会委員長から1年間、お預けして頂きました。そこで私自身、今年度の活動振り返り、創業家精神について3つの会社を挙げました。その一つは「伝説の車を造ろう」というプロジェクトの元、日本でも十数億円に達した創業家のメーカーを設立しました。そしてその元上の一歩を、創業の「後継者のための事業、成功を導く」という「創業の子供達のために何かできないか」という考えの、車好きの仲間が集まった会社です。創業の子供達には、専門の知識や経験が少なく、出資や融資が少なく、保証が得られない状況です。そこでこの会社は、伝説の車を造ろうという事業を通して、「何か出来るか、どうするか」という理念の元で活動しました。現在平成14年3月末には一歩が完成する予定で、4月に発表予定です。これからの時代は、企業の新規創業が期待され、それが企業生命にも関わる問題と認識されていますが、私自身自分一人の人間で終わる事なく、実業者として事業を通して社会貢献を行えば、地域社会が、そして世界が「方向」に変える一助になるのではないかと思います。創業家には、数え切れない困難があります。YBBGにそれを乗り継ぎ、後継者に伝えるビジョンを、そして「伝説の創業家」(自主創業型)を支援しようと思っております。地域や社会のために自分が何が出来るかを事業を通して考え、活動しようと思っております。YBBGの中にチャンスは必ずあります。

最後にYBBGにおいては特に、次年度以降「事業」「真実」になります。そしてこれまでに、今年度の研修会や「私を支え、創業家として来て頂いた方々と、事務局を始めと協力をお願いした皆様方にも、この報告を託して心よりお礼申し上げます。感謝・合掌

YEGセレクション 決定!

受賞

平成13年度YEGセレクション決まる!

平成13年度YEGセレクションの受賞式が、
2月9日、九州は久留米において、
会員総会後、鈴木専務理事より発表があり、
下記の8社の方が受賞され、古泉会長より表彰されました。



(株) セゾンファクトリー

現代人の食生活をサポートしつつ「白い
マヨネーズドレッシング」として女性層の
販路拡大に努めた新しい試み



(株) スペースクリエイション

製造業の商品開発やマーケティングサポート
など一貫した産業活性と企業の創業支援に貢
献し、中小企業の街下請けを豊殖した試み



金升酒造 (株)

日本酒という伝統産業に女性や若者の新
規顧客開拓について商品開発並びに容器
開発を行った試み



福井インターネット (株)

インターネットのシステム独自開発による地
域情報の配信により多くの地域住民に情報
提供を行った試み



(株) 三種

餅穀を手軽に食べられるようにブレンドし、
少量包装することで、核家族化した現
代家庭の食卓に提供した試み



三和マッチ (株)

現ウェブ上でギフト関連企業を集めより多
くの顧客層を開拓したことと新規顧客開拓
により新しい業態を社会に創出させた試み



(株) タカノ

日本の伝統的な工芸「漆器」を冷蔵庫から
電子レンジまで対応させ一般家庭への
普及に貢献した試み



(有) 市政本店

ネット上で大型店の取組めない販路を開拓
し新しい市場開拓と専門に突出することでニ
ーズの多様化に対応した試み



全国会長研修会 久留米会議

連携YEG実践展開 パーチャルからリアルへ



研修会

2月8日(金)
14:00-18:00
市民会館大ホール

■開会式
2月7日(木) 18:00-21:00
市民会館大ホール

■大会期間
2月8日(金) 18:00-21:00
市民会館大ホール

■閉会式
2月9日(土) 10:00-11:30
市民会館大ホール



日秘密な打ち合わせの中で出てきたYEGに関する当面する課題を参加者全員意見をアライザーでスイッチ

最後になりましたが、全国会長研修会久留米会議の開催にご理解を頂いたお世話の皆様、さらに多大な御支援をいただいた皆様ならびに関係各位に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて久留米YEGでは、会長研修会誘致決定に当たりこの会長研修会の意義を実行委員会メンバーとともに協議し「参加者全員が一堂に会し、全員で討議し結論を導く」方式を考え、全員参加型のアナライザーシステムによるアシタル研修会を企画いたしました。当日は秘密な打ち合わせの中で出てきたYEGに関する当面する課題を参加者全員意見をアライザーでスイッチ

同研修会の運営につきましてはメンバーが一丸となり能力を挙げて進めて参りましたが、当日は何かと不行き届きがございました。ご容赦のほどお願い申し上げます。本会議の成果が全国YEGの皆さんに伝わり各単会の活動の糧となることをメンバー間とともに願っております。また本研修会においては私達久留米YEG自身様々なことを勉強させていただきました。今後はこの貴重な体験を活かし、組織の活性化と向づくりに一層努力して参る所存でございます。皆様方には今後とも変わらぬ御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

全国YEGの皆さん「第十九回商工会議所青年部全国会長研修会久留米会議」に全国より「一九三単会、二四七名のYEGメンバーにご参加いただき誠に有り難うございました。関係各位の皆様のご支援ご協力を頂きましたこと、会員の皆様より頂戴いたしました熱き友情に對しまして改めて御礼申し上げます。

オンしていただき、その集計を踏まえエコーアイネーターとパネラーにアイスカッシュインしてもらいました。今回の研修会のシステム自体初めての試みでした。スタッフ一同緊張の連続でしたが、会場の参加者の皆さん、コーアイネーターとパネラーの方々のご協力により無事研修会を終了することが出来ました。

御礼

全国会長研修会久留米会議大会会長 福田有史

若き経済人が、夢語った。仲間の顔が見えてきた。みんなの思いが、聞こえてきた。「久留米会議」！



▲久留米会議の様子



▲1800名以上の様子



▲プレゼンターの様子



▲夕食会場の様子



▲実行委員会の様子



▲夕食会場の様子

コミュニティビジネスと委員会活動

日本経済の再活性化のための
雇用創出型の構造改革を目指す！

新世紀に入っても日本の景気は低迷を続け、戦後の経済発展を支えてきた企業システムや政府の仕組みは時代の変化に対応できないでいます。一方、地域コミュニティにおいても少子化、高齢化が進み地域力が低下し閉塞感が広がっています。

政府は日本経済の再活性化のための雇用創出型の構造改革を目指している。そのなかで、生活者に関わるサービスは、これまで政府がその主な担い手として市場をコントロールしてきました。

NPOを含めた民間の活力と
比較的規模の小さな企業に期待！

しかし、厳しい財政制約下で、成熟社会の生活者の多様なウォンツを真の欲求をよりきめ細かく柔軟に満たすためには、NPOを含めた民間の活力を効果的に活用することが不可欠です。また、新たなウォンツを顕在化させる事業の担い手は、大企業でなくウォンツにきめ細かく応えられる比較的規模の小さな企業が中心であるとしています。

民間主体の新しい経済形態へ！

改革の時代にはそれにあふさわしい所得と時間の組み合わせが必要であり、個々人の働き方や暮らし方といった価値観にあった時間にとらわれない弾力的な働き方が必要となるとしています。不要な規制を撤廃して、民間主体の新しい経済形態のコミュニティビジネスに雇用創出の期待をよせています。

14年度コミュニティビジネス委員会

委員長 石原一夫

「コミュニティビジネス」って何？

コミュニティビジネスについて明確な定義はありませんが、概ね次のように考えられます。企業のビジネスは利益追求思考で、生産性や効率性が求められますが、コミュニティビジネスは、利益追求を第一としないで地域を基盤にして、住民が主体となり、起業家精神をもって、地域で埋もれている人、物、ノウハウ、情報等の地域経営資源を活かして、自発的に地域の問題に取り組み、ビジネスとして解決し、地域を元気にする事業活動です。

社会の成熟化、複雑化に伴い、環境、教育、介護福祉、情報ネット、まちづくり、観光、商店街の活性化、特産物・食品加工、安全等の様々な分野で地域住民が問題に直面したときに発する「ここが痛、こうして欲しい」というささやきがコミュニティビジネスのシーズであり、このささやきに耳を傾けることがコミュニティビジネスのスタートです。コミュニティビジネスを起業するにあたって次の視点があります。

1. その事業活動に携わるメンバーの「生きがいづくり」になっているか。
2. 地域が抱える様々な問題の解決になっているか。
3. 地域の資源を活用し、雇用を創出し新しい協働関係を創出しているか。
4. コミュニティの元気づくりへの貢献と事業性のバランスが採れているか。

ということを十分吟味し、得意な生活領域分野から起業することです。また、組織形態についても社会的性をもったNPOやPFIの組織にするのか、株式会社や有限会社組織にするのかについても検討する必要があります。

委員会活動について

商工会議所青年部副議長にあるように私たちは先導者として、地域の経済的発展を盛り、豊かな住みよい郷土づくりに貢献することを目的としています。

委員会ではコミュニティビジネスについての研修や先進地視察を行い、人格や、コミュニティビジネスのマネジメント能力を磨き、それぞれの地域でリーダーとして団体を組織し、新産業の創出や雇用の創出をすることを目標として活動を行います。

また、各ブロック大会等を通してコミュニティビジネスの必要性や緊迫しさを委員会活動報告という形で全国のYEGメンバーに知らせ、コミュニティビジネスが全国的な展開へと発展していくことを願っています。



「I(茨城)T(栃木)G(群馬)異業種交流事業」 ◆栃木工会議所青年部連合会会長 福田紳一

北関東三県(茨城-栃木-群馬)の県青年部連合会では、21世紀に迎えた地域社会の建設を積極的に進める中で、三県間の情報交換をさらに進め、交流・連携を進めることと、組織の充実を図ることを目的として、「I(茨城)T(栃木)G(群馬)異業種交流事業」を平成13年度から各県の持ち回りにより毎年開催している。

同事業は、当時の三県青年部連合会会長が、北関東自動車道【常磐自動車道(茨城県)→東北自動車道(栃木県)→関越自動車道(群馬県)全長約150km】の全線開通と首都圏河川(茨城県)の開通により三県が一層緊密になり、ビジネスチャンスが拡大することが予測されたことから地域の枠を越えた青年部会員の交流事業を推進していくと始めたもので、群馬県太田市で第1回を開催し、昨年は茨城県で開催された。

第3回となる今年度は、三県青年部連合会会員180名が栃木県野野宮に一堂に会し、地元住居YEGのメンバーが中心となって企画運営を行った。当日は晴式に恵まれ、第1部は第一酒造-吉野冠造から大陣の挨拶と会員親睦のためのゴルフ大会がそれぞれ行われ、参加者相互の交流を深めた。その後、第2部の講演会では「北関東地域の将来について」と題し、衆議院議員清水敏夫氏より、北関東自

動車道による経済効果や国会等移転問題など、様々な角度から見た北関東地域発展の可能性について約1時間30分の講演を聞いた。第3部の交流会では、異業種、異業種の参加者がそれぞれにテーブルを囲み議論を深めるとともに、新しいビジネスチャンス発見のための積極的に関係を深め、情報交換を行い、懇話のうちに期会した。

この事業を通じて、北関東三県の連携・支拂の輪をより一層強固なものにできたと確信するとともに、将来様々な面で中アキシャルの高い北関東地域において、時代の変化に同時に対応し、新たなビジネスチャンスを探り出すことができるよう今後とも三県のネットワークを充分に活用し、地域を越えた事業を参加者全員が積極的に展開していく決意を新たにした。



▲交流会の様子

「商青連の生きる道・アントプレナーズ事業」 ◆兵庫県商工会議所青年部連合会会長 木下一成



▲セミナーの様子

北関東三県(茨城-栃木-群馬)の県青年部連合会全国各地のYEGでも「若手後継者育成補助金」を受けておられる事と思いますが、兵庫県青連も平成13年度、同補助金を受けて「兵庫YEGアントプレナーズ事業」を実施してきました。商青連主催の京都セミナーへの参加を含めて5回のセミナー開催という内容ですが、京都以外すべてオリジナルの企画でシリーズ展開のセミナーです。毎回、テーマに基づく基調講演の他に、実際に事業を起こし成功されている社長をお招きして講演をいただきました。さらに「聞くだけ」では浸りきれないとの判断から、各回の最後には講師やゲスト社長と意見を交換し合う時間を充分に取り、自己啓蒙を図ってきました。さらに次年度以降も継続実施の予定です。

話は変わりますが、そもそも商工会議所青年部の本来の役割、目的は何なのでしょう

うか、もちろん、ただ集まり、話題を深めるだけの団体ではないはず。また、地域には商工会議所青年部以外にも青年団体が、色々あると思いますが、それら団体と同じ、もしくは後進するような活動を行っているだけでは、意味がないのではないですか。

地域経済の発展に貢献し、地域活性化に資することを目指すのが目的です。しかし、それは自分自身の知識ならびに自社の発展の上にとこそ、実現できるものであるはずで、即今の経済状況については、ここで触れるまでもなく、皆さんご承知の通りです。しかし、我々YEGの「E」とは何なのか。今こそ「若手アントプレナーズ」として、我々は起業、創造、経営革新していくべきではないでしょうか。

兵庫県青連は、そのような思いで、アントプレナーズ事業をスタートさせたのです。また一方で都道府県から青年部に対する資金助成金が、各半年から1区域を単位として送られています。その是非は別れるところではあります。都道府県連という組織の存在意義が問われているのではないのでしょうか。各都道府県連におかれましては、是非この機会を活かし、有意義で活発な活動を展開していただきたい。親睦的に単会だけでは難しい事業実施も可能かと思います。そして我々参加者は、そこで受けた知識や判断を自身の事業、ならびに単会での活動に活かしてゆくべきではないでしょうか。と、道を拓くことができると確信します。

「銭形まつり 賞金100万円!銭形踊りコンテスト」

◆観音寺商工会議所青年部連合会

観音寺市では毎年夏の大イベントとして「銭形まつり」を開催しています。このお祭りには、観音寺市のシンボルである銭形の砂絵にちなみ「銭形の青」さんおんこを広く全国に紹介するとともに、観光客の誘致を図り、産業・文化の発展に寄与することを目的として観音寺商工会議所が発起人となって実施しており、今年で37回目を迎えようとしています。



▲銭形踊りコンテストの様子

このお祭りも、第30回までは都立どり中心のよくある盆踊り大会でした。しかし、時代の移り変わりと共にマンネリ化が進み、観音寺市の中行事であるにもかかわらず「商店街の祭り」と苦言を呈せられていました。また津島の「よさこい獅子舞」のような、踊り自身が楽しみや楽しさを醸成している姿に「これが本来のあるべき姿なのではないか」とメンバーも感じ始めていました。

そこで、我々YEGから「もう一度活気ある祭り」という想いと愛着し、市内有志と実行委員会を組織し何度も議論を重ね、「市民が作り、市民が楽しむ、市民のための

祭り」を各言葉に新しい「銭形まつり」が出来上がっていききました。

そして、第31回から商店街会場での「おどり」に加えて、銭形の砂絵のある平野公園を舞台に、優勝賞金100万円の「銭形踊りコンテスト」、賞金総額100万円の電子型宝塚ゲーム「銭形大会」など、観音寺らしい参加型のイベントが誕生しました。おかげさまで昨年は約5万6千人の方にご来場いただきました。現在、我々YEGは「銭形踊りコンテスト」と「お火」を担当しています。今年も、来る7月20日(土)に開催することが決定しました。現在出場チームを募集しております。あなたの町からも、賞金目当てで参加してみませんか?



▲観音寺まつりの様子

●お問い合わせ

観音寺商工会議所青年部までTEL(0875)25-3073
E-mail yeg@kan-color.jp
銭形まつりホームページ <http://www.kan-color.jp/zengata/>

皆さんのご意見お待ちしております!

このコーナーでは、北関東の青年部メンバーからのどっくばらんをお待ちしております。お問い合わせは事務局または商青連ホームページまで

CONTENTS

- 1 会長・次年度会長挨拶
- 2 次年度役員紹介
次年度年間計画
- 3 新会議からのメッセージ
- 4 委員会報告
- 5 YEGセレクション
- 6 会長研修会報告
- 7 コミュニティビジネスについて
- 8 YEG見聞録 北から南から
編集後記

後編 編集後記

今年度の青年部のメンバーは、1年間お付き合いいただきありがとうございました。ありがとうございました。また、この一年は、皆様にはじめに商青連を知っていただくの、全国の情報やタイムリーにお届けできるかを考えて運営してまいりました。また、その過程が多く、皆様には感謝を込めてお礼を申し上げます。次年度広報委員会も、加賀YEGの窓口委員長をはじめ、強力な支援を賜ります。皆様のサポートを感謝いたします。

最後になりましたが、「項目ごとの対しての努力していただき、また、皆様に感謝申し上げます。

お詫言
 来年3月号のスタートアップ紹介に掲載致しました関係者の代表理事 辻博明君の写真を掲載してまいりました。ご本人はごめい、皆様には大変な迷惑をおかけ致しましたこと、心よりお詫言申し上げます。心よりお詫言申し上げます。

辻 博明
 (代表理事)